琉球大学学術リポジトリ

アジア太平洋域における連携教育と共同研究の発展

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム広報委員会 公開日: 2009-04-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土屋, 誠, Tsuchiya, Makoto メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/9468

アジア太平洋域における連携教育と共同研究の発展

拠点リーダー　　土屋　誠

21世紀COEプログラムの５年間の活動がゴールに近づいています。最終年度はまとめの年度であると同時に新たな門出の準備のための一里塚でもあること、および終了後は大学独自での活動を継続させ、一層その特徴を明確にした教育研究活動の推進が求められていること、などを繰り返し述べてきました。今後を見据えて今までの活動の反省をしなければなりません。

COEプログラムとは活溌なレベルの高い研究活動に裏付けられた若手研究者を育成する教育プログラムです。また国際性を強く打ち出したプログラムであることも重要と言われてきました。これらは今後申請するグローバルCOEプログラムにおいてはさらに強調されています。

私たちは国際的な活動として、共同研究の推進、留学生の受け入れ、国際シンポジウムの開催などを進めてきました。教育活動としての成果は長い目で見ながら評価を与える必要がありますが、短期的にも若手の皆さんの成長する様子をうかがい知ることにより私たちの活動を振り返るきっかけになります。４回開催した国際サマープログラムは比較的良い評価をいただいているようです。国内外からの参加者は相互に刺激を受け、着実に成長しています。サマープログラムに参加した複数のメンバーが本学の大学院に入学し、勉学に励んでいます。２ヶ月間という期間はかなり長いという気もしますが、参加者にとって見れば刺激的で大きな成長のためのヒントを得た期間であったでしょう。

国際交流はその意味や目的を明確にしなければ充実したものにはなりません。アジア太平洋域との連携を目指した琉球大学の交流計画は明確な目的を有しています。沖縄と共通の環境･課題を有するアジア太平洋地域において、自然科学の多様なテーマを研究し、真理を探究して科学に関わる楽しさを後輩に伝授し、その成果を環境問題の解決のために貢献することは極めて重要な課題です。従ってこれらの地域の大学や研究機関と連携して教育活動や共同研究を進めることには大きな意味があります。私たちに対する期待が大きいことも事実です。

近年、国際的に連携した教育プログラムの議論が盛んに行われています。私たちが今後の活動を考える際に参考にすべきプログラムは幾つかあります。エラスムス・ムンドゥス・プログラムは欧州連合が実施している修士課程の大学院生に対する共同教育プログラムであり、多くの大学が連携したコンソーシアムが形成されており、大学院生たちが充実した教育を受けています。10数年に及ぶパイロットプログラムを実施した後、本格的な活動が開始されたようですが、ヨーロッパ諸国の教育に対する意気込みが感じられます。ダブルディグリープログラムやジョイントディグリープログラムも多くの国々で進められようとしています。国内でも幾つかの大学がすでに実施しており、その成果が期待されています。

私たちのプログラムでは毎年70～80名のメンバーが、大きなチームにまとまることも一つの目的として活動してきました。その雰囲気は確認できるようになったと思うのは些か自惚れているでしょうか。昨今、より学際的な学問の発展が期待されています。複数の学問分野の研究者が議論を交わし、新しい教育プログラムを作ることにより学際的な学問分野の構築が可能になります。今後さらにこの大きな課題の解決に向けて、琉球大学の教育研究活動の特徴を一層明確にするために努力したいものです。